

# 教育福祉常任委員会会議記録

1. 期 日 令和2年5月21日(木) 開会 9時30分  
閉会 10時00分
2. 場 所 第1委員会室
3. 付議案件 閉会中の継続調査(所管事務調査)について  
「移動が困難な町民の生活を支える仕組み」
4. 出席者 渡辺委員長、露木副委員長、松崎委員、小笠原委員、前田委員、  
一石委員、野地議長  
傍聴議員 2名  
一般傍聴者 1名  
議会事務局 3名 局長、課長、主事

---

## 移動が困難な町民の生活を支える仕組み

委員長 本日の議題は閉会中の継続調査(所管事務調査)について、「移動が困難な町民の生活を支える仕組み」についてである。今日の主題は、その中で6月議会に対する報告、確認をしていきたいと思う。既にお手元に配布している資料があるのでこのことについてご意見頂戴したいと思う。

小笠原 コロナウイルス自粛の関係でいろんな動きが止まっていてとても残念だが、私、議員であるとともに松崎さんもメンバーだが、一色再生協議会のメンバーになっており、そこでもいろいろ情報を共有化したい。今のところ全体で会ってはいないが、個々のメンバーの中で私たちが目指しているものとはほぼ近い部分もあるし、共に共有部分もあると良いのかなと思った。今日の委員会でもしっかり話しているところを傍聴に来てくださいますと言うのがよいのかもしれない。今日傍聴は普通に受け入れている。そういうことも何かちょっと考えていかれるとよいなと思っている。

松崎 今、小笠原委員から話があったが、再生協議会で移動支援ということでやっている内容は外出困難な高齢の方を車に乗せて商業施設に連れて行くということだが、月に1回試験的運用で連れて行くことを始めた。ところが、1月、2月に2回目をやり、3月にやる予定だったが、コロナの影響でできなくなってしまった。こういったことでそういうボランティアによる車を使っての移動支援ということは、ある意味脆弱な部分があるがというのが感想である。こういったことが現実に起こるとそれにも向き合わなければいけないということで、そういった脆弱な部分があるんだということに向き合い、私個人と

してインフラを整える。バリアフリー化すれば、コロナが来ようと怖くないよということだと、私は今回のことを感じている。

一石

Zoom で何回か学習会をした上で法的なこと、D 型とか、地域の人が係わる移動の仕組みの中で情報共有させていただいた。私は一番印象的に残っているのが柏市で、東京大学が入って、ジェントロジーという高齢者が生き生きと充実した高齢者の生活を実践研究している大学の研究チームを入れて実践研究しているところの社会福祉協議会が二宮町でいうと、町民活動推進補助金のような、手挙げ式でアイデアを募ってアイデアを活かしやすい仕組みを作っているというのがすごく面白いなと感じた。これからはコロナウイルスの影響もあって新しい生活様式を考えると地域の人たちがプレーヤーになって地域福祉のために働いていただける仕組みを考えることが大事で、行政側からの視点だが、新しいボトムアップが出やすい仕組みを提案するということが、これから大きな課題だと思っている。

議長

③の現在の素案に至ったという素案というものが手元に無いが。提言書をまとめるにあたって②の 5 項目の中からここが重要になるかと思うが、これを見ると理由付けはある。勿論、1 つ目の郵送事業が課題となっているから極端に言うと D 型を導入しなさいという提言書になろうかと思われる。他のものは条例との関連が重要で将来考えて何を提言するかという D 型導入をしなさい。については 2 層 3 層の主体性を持ちなさいという提言書になりそうである。そうすると、移動支援の D 型を導入に限定がされるのかなというふうに見受けられ、移動困難な町民を支える仕組みという大きな調査事項に対して、どうなっているのかと疑問点が生じてしまうという懸念を持っている。あくまでも私たちは高齢者の移動だけではなく、町民全体の移動のことを考えていた節もあるので、ここだけに注視して提言書を出すというのも 1 つかもしれないが、もう少し大きなくくりも提言書に入れたいという思いもあるがいかがか。

松崎

今の意見に賛成か反対かと言うことでしたら、賛成である。理由は先ほどいったように、今回コロナである意味脆弱な部分が見えてきて、本当の意味でのセイフティネット、何があってもリフトもしない、本当のベースでの移動させるのがバリアフリー化だと思っているので、重要であるというふうに終わってしまっているが、もう少しこの部分を格上げしていただけるとありがたいなと思う。

委員長

D 型については、もう少し良し悪しというか、メリットと、D 型に関連してボトムアップというところが先ほど一石委員から出てきた、D 型という総合事業として決まりきったメニューになるので、そのへんちょっと回数が何回も取れないと思うが、そこは 1 回整理する必要があるかなと思う。野地委

員から出された、総合事業移動支援 D 型と具体性はあるがそこに絞ると、他の町民に対して外れてしまうのではないかと言う指摘だが、ある意味そうである。高齢者の福祉的な観点からいけば、他の町民もカバーできるという話し合いをしていたが、そこに入ってしまうと、高齢者以外の福祉の視点がどこかに飛んでしまうという指摘だと思う。その点については難しい。松崎委員から出されたバリアフリーの問題については、これはこれで重要だと考えるが、どうしても提言書というかたちをとるとすると、所管の方ではこれが受け付けられないという可能性が、というか受け付けないということになってしまう。それは必ず重要であるというわけではなく、こういう提言が話の中であったと言うことを特記すべきであり、今後具体的な形にしていくときに外すのではなく、きちっと書くということは、私は必要だと思う。

議長

提言書を出すということは執行予算をとり、事業とし、明確に動いてほしいと言うのが我々の要望事項になるかと思うが、私が言った様に、移動が困難な町民の生活を支える仕組みでずっと研究してきたが、たとえば庁舎研究を進める上で第一歩として町民の中でも動くべきことは高齢者であったと、高齢者の移動が対応すべきで重要度が高いという結論に達したと。まず一歩として D 型の導入を進める展開、あれもこれもでなく。たとえば 6 月以降の調査事項を少しテーマを変えてそこに集中していくというやり方も最終的な提言書としてまとまるのかなという感じもしているので、継続調査をしていく中でテーマが変わってきて最終的な提言をここですするという考えでもよろしいのかというふうに感じている。

露木

今 D 型の話が出ているが、高齢者の移動が困難だなと課題は見えるわけで、どうしても課題の法則から入ってしまったような気がしていて、将来、町中に高齢者がめちゃくちゃ歩き回るといふのを皆が共有して想像してそこに向かっていこうとしているのか、移動手段として町中にバスが走り回るとか。どういう町を目指したいのか、どういうふうに高齢者に元気になってほしいのかみたいなその部分のビジョンのところなかなか話し合われていない気がする。そこが一番わくわくするところ言うか、話し合いとしてはスタートで、それを行政と共有して始めてやり方が何がいいのかという選択肢が出てくると思っているので、D 型をメインとすると狭めてしまっているような気がする。そもそも論になってしまうが、もう少し町をどうしたいのか、町民の方にどういうふうに暮らしてほしいのかというビジョンのところを行政とも共有できるような話の進め方が必要かなと思っている。

小笠原

私としてはそれは前提として、そこにたったところで始まっていると思っている。二宮町は介護認定の人数も少なく、ある面、認定がきついという見方もあるが、現実には周りの方は 80 代でもテニスをやっている方も結構いたり、うちの町の現在は元気なお年寄りがたくさんいらっしゃるというのが共通認

識である。コロナで自粛になり後どうなるか分からないが、2月まではそうだったと思う中で、なぜD型かというのはD型が見えやすいということと、仕組みがある程度整っているからである。まだ10数年前までは、それすら作っていく途中で先輩方が頑張っていた部分がある。私はD型をとどめるというのは手段であって目的ではないと思っている。移動支援を整えるための町が税金を使って講座を開いたときに集まってくる人達に対して働きかけの仕方によってボランティアの底辺が広がるのがあきらかで秦野市を見ていけばそうなのである。それがメインというよりも、それを一つの手段として、まず一歩進めていく考え方だと思う。町としてはコミバスを走らせているということが一歩だと思うが、次はこれもやってみよう、それができてきたときに。担い手がないとやれないことなので担い手を作っていく私は一つの手段としての位置づけではないかと思う。どんなに元気な人でも最後はどうしても体の具合が悪くなったり、夫婦だったら片方になったりだとか、頑張っても、頑張ってもそれは厳しいところもある。露木さんの住んでいるエリアと私の高齢者しかすれ違わないようなエリアと、坂が在るところとないところ、お年寄りに対するイメージが変わってくるのかと思う。買いものに歩いて3分ぐらいでいけるエリアと、半日仕事みたいなかんじで行くところと違うので。

一石

議長がD型についてちょっと絞った言い方をしたが、私たちにD型について研究してきたわけではなく最初は皆で道路を調査したりと、そちらの方が多かった。それから露木さんがおっしゃったような町全体のビジョンということも大事だと報告みたいなものを出させていただいた。最初にビジョンがあって、福祉は一本ではなく多様なものがないとセイフティネットにはならないので多様なやり方、ボトムアップもあれば、バリアフリーもあるし、多様なことで、今、町はD型についても分かっている2層の協議体で課題の抽出をしているところで、その姿勢では全然狭いし、広がってこないし、町の姿勢、待っているような場であるので、もっとそこを進めるようなもっと多様な町民にとってのチャンス、これから地域にいる人がたくさん増えるわけでその人達の総意を生かすようなチャンスのある場を作る。多様な福祉の1層のように福祉のコアとなるところがたくさんあるような町を指すのではないかと思っている。

前田

小笠原委員がおっしゃられたかたちでよいかと思う。地域によっても二宮は坂のある地域、坂の無い地域、たとえば東海道沿線などは平らなところが多いので茶屋のほうから80半ばのおばあさんがいる。また90代でもバッグを背負って平塚まで半日がかりで歩いていく方もいる。「おじいちゃん、いくつ」と聞くと、「96」だと言われていた。そういう方を何人かを見かける。理想としては自分の足で歩くなり、自転車に乗るなり、電動カートを使うなりして移動するのが理想だと思っている。そういったところでこの間一石委員

から提案され、柏市のD型を見たわけだが、そういったかたちを二宮町にあったD型を作り出していくのが大事ではないかなと思っている。

議長

露木委員が言われたビジョンも当然大切でそこからスタートしたと思っている。私としては、ビジョンというのは、教育福祉常任委員会から議員提案というかたちで「心身きらり健康づくり条例」に載っているのがビジョンであると考えている。そこで健康寿命を保とうと、心身ともに健康であるのが大切だということからスタートしたと思われる。高齢者の移動が困難な方ということは体も心も不健康になってしまうでしょうということから、その支援の下で検討してきて最終的にD型という言葉が残ったと。限定してしまうといけませんが、D型の活用も大きな重要な要素があるというところでは、一致しているのが今日の段階だと思うので、健康づくり条例から追っかけていくと個々も大切ではないかという流れ、理解でよろしいかというふうに感じている。

一石

少し補足させていただく。私は柏市の社会福祉協議会がD型を勧めているという言い方はしていない。もっと多様であり、居場所とかいろんなことで手挙げ方式で10万、20万円の資金がたつので手を挙げてくれというような言い方、だから多様だった。D型はほんの一部である。居場所への送迎というかたちなので。

委員長

もう1つの見方として、交通圏の補償という観点と、健康づくりという観点とぶつかったあたりになってくるのかなと。今の話を総合して聞くと。露木委員が言われるみたいに、健康づくり条例を含めてそこらへんは明確にしておく必要があると思う。初めて提言を見た人がどこを目指しているのかについては、だんだんと時間が6月議会までと言うとなると。違う、9月議会までか。9月議会までとなると時間が限られるが、先ほど一石委員からもD型だけのことを言っているわけではないということ。その辺は骨子の報告でも、ここに書いたのは、こういうことが重要で、そっちの方向だとは書いていない。あともう一つ報告の内容に含めると健康づくりという視点と交通圏の視点は重要だと認識をしている。それは足しておいた方がよいかもしれない。

露木

今、委員長が言ったことで良いと思う。報告の前には間に合わない、D型の話が出ていてD型について町が何でやってないのという部分、改めて話を聞いていない。こちらで勝手にというか、こちらで想像の部分で進むということもあるので実態をきちんと聞くことも必要ではないかと思う。

委員長

なかなかまだ電話会議が、行政がまだ追いついてこれない部分があるので、やり方を検討しなければならないが、いずれにしてもどのような経緯で総合事業にD型が入れてこなかったのかと、素朴な疑問もなかなか深める機会が制

限されてしまっているのです、それは具体的には 6 月議会終わったら早速やらなくては行けない。他に何か。健康づくり、交通圏の問題と総合事業というのは一つのあり方であるところ、はっきり分かるように報告して行きたいと思うがよろしいか。異議はないか。

小笠原 今の話の中で、役場の仕組みの中でまだ電話会議とおっしゃったが Zoom みたいな、オンライン会議を対応できないということは無いと思うがそのへんは局長に確認したいが。この時代になって今になってまだやれないというのは許されない。

庶務課長 最近だが、Zoom 会議ができるパソコンがあるので、それを貸し出しするという話があったので一回試せるのかということになると思う。

委員長 6 月議会後の研究調査会には健康福祉部からも参加をいただき、総合事業、移動支援 D 型を含めて状況報告をいただく機会を作りたいと思う。

庶務課長 Zoom 会議だと非公式のような感じになるかと思うが、総務の常任委員会だと担当課を呼んで正式な委員会の中で発言をされて記録に残すということもあるのでそれも視野に入れていただけたらと思う。

委員長 了解した。

議長 6 月の中間報告ということでこれは正副でまとめていただいたものを改めて拝見するというので理解する。継続調査事項は移動が困難な町民の生活を支える仕組みというテーマのもとで 6 月議会後も継続調査として進めるという認識でよろしいか。

委員長 私は文言を変更しないで進めたらどうかと思うがいかがか。

(「はい」「了解した」との声あり)

異議無しのようなのである。先ほど申し上げた点ともう 1 回確認して 6 月議会への報告、もう一度皆さんにメールで見てもらったほうがよいか。口述書までにはいかないにしても、もう少しまとめ直したものを皆さんにメールで確認いただくようにする。25 日の全協であらかた報告する必要がある、全協の前日までに皆さんにお届けするよう頑張る。何か他に何か。なければ今日の教育福祉常任委員会を閉会する。

閉会 10 時 00 分